



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

環太平洋中世代付加体中の遠洋性堆積物に記録された堆積イベント

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小嶋, 智 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/306

研 究 成 果

本研究で得られた成果の一部はすでに学会誌等に公表済み，あるいは，印刷中で，それらのコピーを本報告書の最後に添付したのでそちらをご覧ください．以下の報告では，今後発表予定の研究成果を述べたい．また，本研究の途上で多くの方々の多大なご支援を賜った．特に，日本福祉大学の水谷伸治郎教授，名古屋大学大学院理学研究科地球惑星理学専攻の足立 守教授，与語節生技官，井上弓彦君，坂田祐子さん，安藤暁史君，地質調査所国際協力室の脇田浩二博士，岐阜大学教育学部地学教室の川上紳一助教授，同大学工学部土木工学科の矢入憲二教授には本研究で扱った碎屑岩層のみならず，広く美濃帯全体の地質について日頃から議論頂いている．ここに記して感謝したい．

1. はじめに

環太平洋を取り巻く造山帯には古生代～中生代にかけての層状チャートが広く分布している．これらのチャート層中には粗粒碎屑物は含まれていないと考えられてきた．しかし，美濃帯南部の尾崎－雨池地域や上麻生地域には，まれに，碎屑岩層を挟む三畳紀層状チャートが分布している（Kida, 1979; 安藤, 1988; Tsukamoto, 1989; Kakuwa, 1991; 水谷・小井土, 1992）．また，Wakiita et al. (1994) はインドネシア，スラウェシ島の白亜紀層状チャート中に挟まれる砂岩層を記載した．さらに近年，Kojima et al. (1996; in press) は，ロシア極東地域，サマルカ帯の三畳紀層状チャートにも碎屑岩層が挟まれることを報告している．これらの碎屑岩層の起源を明らかにし，その堆積メカニズムを解明することは，チャートの堆積していた海洋や堆積盆の環境変化・発達史を考える上で重要な手がかりを与えることが期待される．本報告ではこれら碎屑岩層のうち，これまで断片的に報告されてきた美濃帯南部のものについて，産状・岩石学的特徴・放散虫年代を記載し，今後の研究の基礎データとしたい．

2. 地質概説

西南日本内帯の美濃帯（Fig. 1）には，主として，古生代後期の石灰岩・チャートとそれらに密接に伴われる緑色岩，三畳紀～ジュラ紀のチャート・碎屑岩類，およびそれらのブロックやシートを含むメランジュが分布し，ジュラ紀～白亜紀前期にアジア大陸東縁における付加作用により形成されたと考えられている（例えば，Mizutani, 1995）．本報告で扱う美濃帯南部には，Wakita (1988) が上麻生ユニットとした，三畳紀～ジュラ紀前期にかけての層状チャートとそれを覆うジュラ紀中期の珪質頁岩，および碎屑岩類が分布している．これらの地層は，スラストで何度も繰り返し（例えば，Yao et al., 1980; 木戸, 1982），さらにその後の褶曲活動により，褶曲軸が西にプランジした馬蹄形の分布を呈している（Mizutani, 1964; 近藤・足立, 1975; Fig. 2）．